

平成 26 年 度

## 小学校教員資格認定試験

### 教職に関する科目 (I)

#### 注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 26 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。  
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、すべて解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。  
訂正する時は、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。  
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 70 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を持ち帰ってもかまいません。 (悪い例) ⊗ ⊗ ⊕ ⊙

問 1 次の文は、近代のヨーロッパで書かれたある著作の一節である。この著作の著者名と著作名の組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

人は子どもというものを知らない。子どもについてまちがった観念をもっているので、議論を進めれば進めるほど迷路にはいりこむ。このうえなく賢明な人々でさえ、大人が知らなければならぬことに熱中して、子どもにはなにが学べるかを考えない。かれらは子どものうちに大人をもとめ、大人になるまえに子どもがどういうものであるかを考えない。

著者名	著作名
ア フレーベル(Fröbel, F. W. A.)	人間の教育
イ ペスタロッチ(Pestalozzi, J. H.)	白鳥の歌
ウ カント(Kant, I.)	実践理性批判
エ ルソー(Rousseau, J. J.)	エミール

問 2 コメニウス(Comenius, J. A.)についての説明として誤っているものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 現在のチェコ共和国に生まれ、ボヘミア同胞教団の附属学校の教師および牧師として活動した。しかし三十年戦争の勃発により、国内およびヨーロッパ各地を転々と逃亡生活することを余儀なくされた。

イ 『児童の自由教育論』の中で、範をクインティリアヌス(Quintilianus, M. F.)に求め、子供の個人差を前提に、興味と能力に適合した方法や内容を考慮し、体罰ではなく遊びを中心にし、自由人としての教育を強調した。

ウ 自然と人間と神についての全てを網羅する統一的普遍的な知識体系をまとめあげ、それを汎知(pansophia)として公表した。

エ 世界最初の絵入り教科書である『世界図絵』を著し、人間・社会・自然のあらゆる事柄に関する知識の網羅に取り組んだ。

問 3 次の A, B, C の文は、大正自由教育運動で独自の教育方法を提唱した人物について述べている。それぞれの文が述べている人物名の組合せとして正しいものを、下の A から E の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- A 奈良女子高等師範学校附属小学校主事となり、他律的教授を打破して自律的学習を目指す「学習法」と教科の枠を越えた「合科学習」を試みた。  
 B 千葉県師範学校附属小学校主事となり、自学をスローガンとする「自由教育」を提唱した。  
 C 兵庫県明石女子師範学校附属小学校主事となり、個別教授と一斉教授を調和させた「分団式動的教育」の研究を行った。

	A	B	C
ア	手塚岸衛	木下竹次	千葉命吉
イ	手塚岸衛	及川平治	千葉命吉
ウ	木下竹次	及川平治	手塚岸衛
エ	木下竹次	手塚岸衛	及川平治

問 4 次の文は、「教育基本法」(平成 18 年 12 月 22 日法律第 120 号)の条文である。文中の( ① )から( ④ )に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下の A から E の中から一つ選んで記号で答えなさい。

第 5 条 国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、( ① )を受けさせる義務を負う。

2 義務教育として行われる( ① )は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる( ② )を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

第 6 条 法律に定める学校は、( ③ )を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人のみが、これを設置することができる。

2 前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む( ④ )を高めることを重視して行われなければならない。

	①	②	③	④
ア	普通教育	基礎	公の性質	意欲
イ	初等中等教育	基礎	公共の精神	資質
ウ	普通教育	力	公の性質	資質
エ	初等中等教育	力	公共の精神	意欲

問 5 次の文は、「いじめ防止対策推進法」(平成 25 年 6 月 28 日法律第 71 号)の条文である。文中の ( ① )から( ④ )に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第 1 条 この法律は、いじめが、いじめを受けた児童等の( ① )を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものであることに鑑み、児童等の( ② )を保持するため、いじめの防止等(いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処をいう。以下同じ。)のための対策に関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体等の責務を明らかにし、並びにいじめの防止等のための対策に関する基本的な方針の策定について定めるとともに、いじめの防止等のための対策の基本となる事項を定めることにより、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とする。

第 2 条 この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と( ③ )他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であつて、当該行為の対象となった児童等が( ④ )を感じているものをいう。

	①	②	③	④
ア	教育を受ける権利	尊 厳	一定の人的関係にある	心身の苦痛
イ	人 権	心身の健康	一定の人的関係にある	被害意識
ウ	人 権	尊 厳	学校生活上関係のある	被害意識
エ	教育を受ける権利	心身の健康	学校生活上関係のある	心身の苦痛

問 6 次の文は、「学校教育法」(昭和 22 年 3 月 31 日法律第 26 号)に関する説明である。同法の規定に照らし誤りのあるものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができるが、体罰を加えることはできない。
- イ 小学校において校長は、性行不良であつて他の児童の教育に妨げがあると認める児童があるときは、その保護者に対して、児童の出席停止を命ずることができる。
- ウ 校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。
- エ 学校教育法で定められる学校とは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校である。

問 7 次の文は、『小学校学習指導要領』(平成 20 年文部科学省告示第 27 号)の「第 1 章 総則 第 4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の一部である。文中の( ① )から( ③ )に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

各教科等の指導に当たっては、児童の( ① )等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の( ② )を図る学習活動を重視するとともに、( ③ )に対する関心や理解を深め、( ③ )に関する能力の育成を図る上で必要な( ③ )環境を整え、児童の( ③ )活動を充実すること。

	①	②	③
ア	思考力, 判断力, 表現力	活用	言語
イ	思考力, 判断力, 表現力	習得	探究
ウ	生きる力	習得	言語
エ	生きる力	活用	探究

問 8 次の文は、『小学校学習指導要領』(平成 20 年文部科学省告示第 27 号)の「第 1 章 総則 第 2 内容等の取扱いに関する共通的事項」の一部である。文中の( )に当てはまる語句として正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第 2 章以下に示す( )の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。

- ア 各教科, 道徳, 外国語活動及び総合的な学習の時間
- イ 各教科, 道徳, 外国語活動及び特別活動
- ウ 各教科, 道徳, 総合的な学習の時間及び特別活動
- エ 各教科, 外国語活動, 総合的な学習の時間及び特別活動

問 9 次の文は、「教育振興基本計画」(平成 25 年 6 月 14 日閣議決定)の一部である。文中の( ① )から( ④ )に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

本計画においては、以下の「自立」「協働」「創造」の三つの方向性を実現するための生涯学習社会の構築を旗印とする。

(自立) 一人一人が、多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を( ① )に切り拓いていくことのできる生涯学習社会

全ての個人の社会的自立の保障に向けて、生涯を通じ、社会における居場所と社会参加の機会を確保するとともに、それぞれの多様な個性・能力に応じて、社会を生き抜くために必要な力を( ① )に身に付け、生かしていくことができるようにすることを目指す。

(協働) 個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かして、共に支え合い、高め合い、社会に参画することのできる生涯学習社会

社会全体の絆の確保に向けて、言語、( ② )、文化、郷土、歴史、自然や協調性といった我が国の強みなどを尊重しつつも、様々な個性を持つ人々や集団が、多様な( ③ )・ライフスタイル等を受容しながら相互に学び合い、支え合い、高め合うことのできる環境の構築を目指す。

(創造) これらを通じて更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会

最先端の場から( ④ )に至る社会の様々なステージにおいて、多様な( ③ )を受容し、それらがぶつかり融合することを通じ、新たな価値を創造することができる環境を構築することを目指す。

	①	②	③	④
ア	主体的	習 慣	人生観	ものづくり
イ	積極的	習 慣	価値観	日常生活
ウ	積極的	伝 統	人生観	ものづくり
エ	主体的	伝 統	価値観	日常生活

問10 次の文は、「平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」に関する説明である。同調査及び結果に照らし誤りのあるものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 体力合計点は、小学校・中学校・男女全てにおいて、過去の調査と比較して大きな変化は見られない。

イ 中学生については、1週間の総運動時間を見ても、中学校で運動する生徒としない生徒の二極化は確認されず、総じて十分な運動時間が確保できている。

ウ 1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒は、小学校女子では21.0％、中学校女子では29.9％だった。

エ もっと運動するようになるための条件については、「好き・できそうな種目があれば」「友達と一緒にできたら」などが上位にある。

問11 次の文は、ある心理学者について述べたものである。その人物名として最も適切なものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

教師が児童・生徒に対して持っているいろいろな期待が、彼らの学習成績を左右することを実証した。その手続としては、子供の1年後の成績の伸びを予想できると称するテストを実施し、伸びが期待できるとして無根拠に選んだ子供を教師に知らせ、教師に特定の子供へ期待を持たせた。その上で、教師が期待を持った子供は、8か月後のテストの成績で著しい向上を示していることを明らかにした。

ア ワトソン(Watson, J. B.)

イ ローゼンソール(Rosenthal, R.)

ウ トールマン(Tolman, E. C.)

エ ローゼンバーグ(Rosenberg, J.)

問12 学習場面におけるプラトーについての説明として正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 学習課題を練習している際にみられる一時的な進歩の停滞期間のこと。
- イ 特定の中性刺激に繰り返し接触するだけで、その刺激に対する魅力が増し好意的な態度を取るようになる現象のこと。
- ウ 過度に没頭した結果、疲れ果ててしまい、極度の身体疲労と感情の枯渇が起こった状態のこと。
- エ ある特定の事柄を学習するには、学習者が一定の発達を遂げていることが必要であるが、そのような学習成立のための準備性のこと。

問13 発達段階と、その発達段階と関連が深い概念や用語の組合せとして誤っているものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 青年期 —— アイデンティティ
- イ 児童期 —— ギャングエイジ
- ウ 幼児期 —— 潜伏期
- エ 児童期 —— 「勤勉性」対「劣等感」

問14 心理検査についての記述として正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア ロールシャッハテストとは、被検者に未完成の文章を提示し、その文章を自由に完成させることによって、被検者の心理的・社会的状況をとらえようとする検査である。
- イ 投影法による心理検査は、P-F スタディ、バウム・テスト、内田クレペリン精神検査などがある。
- ウ 個人の心理的諸側面を理解しようとする場合に、複数の異なるテストを組み合わせることで実施し、多面的に情報を得ることがある。このとき、組み合わせられたテスト全体をテスト・バッテリーとよぶ。
- エ 作業検査法とは、足し算などの単純な作業を通してその人物の持つ知能の状態を明らかにする知能検査の1つである。

問15 次の文は、『小学校学習指導要領』(平成20年文部科学省告示第27号)の「第4章 外国語活動 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の一部である。文中の( ① )から( ③ )に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

指導計画の作成や授業の実施については、( ① )又は( ② )が行うこととし、授業の実施に当たっては、( ③ )の活用に努めるとともに、地域の実態に応じて、外国語に堪能な地域の人々の協力を得るなど、指導体制を充実すること。

	①	②	③
ア	専科の教師	外国語活動を担当する教師	デジタル教材
イ	学級担任の教師	外国語指導助手(ALT)	デジタル教材
ウ	学級担任の教師	外国語活動を担当する教師	ネイティブ・スピーカー
エ	専科の教師	外国語指導助手(ALT)	ネイティブ・スピーカー

問16 次の文は『小学校学習指導要領』(平成20年文部科学省告示第27号)の「第5章 総合的な学習の時間 第1 目標」である。文中の( )に当てはまる語句として正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に( )を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

- ア 主体的, 実践的, 協力的に取り組む態度
- イ 自主的, 創造的, 集団的に取り組む態度
- ウ 主体的, 創造的, 協同的に取り組む態度
- エ 自主的, 実践的, 協同的に取り組む態度

問17 次の文は『小学校学習指導要領』(平成20年文部科学省告示第27号)の「第3章 道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」[3 道徳の時間における指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする]の抜粋である。その中に含まれていない事項を、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

イ 先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

ウ 自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫すること。

エ 集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を生かすなど、児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

問18 教育相談とは、児童生徒の発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図る教育的機能である。教育相談と生徒指導の関係について適切なものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 教育相談は、養護教諭やスクールカウンセラー等、学校の一部の教職員がその専門性に基づき行うものであるが、生徒指導は全ての教職員が行うこととされている。

イ 教育相談は、児童生徒の自主性や自発性を重んじ、成長や発達を支える教育観に立つが、生徒指導は、児童生徒の社会性の形成といった文化の伝達に重きをおいている。

ウ 教育相談は、いじめや不登校といった何らかの問題を抱えている児童生徒を対象に行うものであるが、生徒指導は全ての児童生徒を対象としている。

エ 教育相談は、主に個に焦点を当て、面接や演習を通して内面の変容を図るのに対し、生徒指導は、主に集団に焦点を当て、集団としての成果や変容を目指している。

問19 学校の教育相談活動を充実させるためには、スクールカウンセラーとの連携が極めて重要である。『生徒指導提要』(平成22年3月)の「第5章 教育相談」で示されるスクールカウンセラーの主な職務・役割に該当しないものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 学校の求めに応じて、教職員にカウンセリングや発達障害、臨床心理学等に関する校内研修を実施する。

イ 問題を抱えた児童生徒の環境への働きかけとともに、関係機関とのネットワークの構築・連絡・調整を実施する。

ウ 児童生徒や保護者に対する個別アセスメントを実施し、生活や学習の状況、進路希望等を把握したうえで、カウンセリングを行う。

エ 生徒指導部と連携し、児童生徒の問題行動への対応について、チームによる援助ができるよう支援する。

問20 平成18年10月に文部科学省初等中等教育局長通知「いじめの問題への取組の徹底について」が出され、学校におけるいじめ問題に関する基本的認識と取組のポイントが示された。本通知で示された「いじめの早期発見・早期対応」に関する基本的認識と合致するものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア いじめの被害者になりやすい児童生徒には、適切な自己主張ができない等、共通の性格傾向があり、担任はこのような児童生徒に対して、日頃から注意を払う必要がある。

イ いじめは学級内で発生することがほとんどであるため、原則、学級内での教育活動に基づき、その解決を図ることが望ましい。

ウ 学校におけるいじめの対処方針、指導計画等の情報は、日頃より、家庭や地域へ積極的に公表し、保護者や地域住民の理解を得るように努めることが望ましい。

エ いじめの事実関係の究明には、正確かつ迅速に行う必要があるため、保護者や友人等から情報を集める必要はなく、いじめの被害者からの情報にのみ基づくべきである。